



# 【第49期初級陸曹特技課程「准看護師」入校式】

令和6年4月3日

自衛隊札幌病院准看護学院（学院長 本間1佐）は、4月3日（水）、北部方面総監部から医務官佐藤1佐、人事部人事課長代理人事2班長阿部2佐、防衛部訓練課長代理教育班長安達2佐、方面隷下部隊から北部方面衛生隊長野澤1佐等のご臨席を賜り、多くの志願者の中から栄光を勝ち取り、全国から集まった第49期初級陸曹特技課程「准看護師」28名の入校式を挙行了た。

入校式にあたり病院長（川口陸将）は、「本課程で養成される「准看護師たる衛生救護陸曹」は、第一線から治療・後送の各段階において、傷病者の救護・看護等を担うという重要な役割が期待されている。また、先般の新型コロナ感染症対応においても、部隊等における感染対策や健康管理、自衛隊大規模接種センター・会場や職域接種会場等におけるワクチン接種など、医療従事者の一員として、大きな力を発揮した。」と話し、学生に「自己鍛錬」「思いやり」の2つを要望し、「修業における自己の目標を設定し、地道に日々研鑽するとともに、各々が目的意識と自発的な意欲を持ち努力を継続し、相互に刺激し合うことは諸官に大きな成長をもたらしてくれる。人の痛み、苦しみや悩みを感性深く受け止め、知識と技術に裏付けられた、人を思いやる気持ちが滲み出るような准看護師を目指してほしい」と訓示した。

准看護学院長は、「学院一丸」「日々前進」の2つを要望し、「これまでの人生、部隊経験、ここ准看護学院を目指した動機は各々異なるが、これからは、同期はもちろんのこと、教官・助教・先輩たちと「学院一丸」となり、自衛隊衛生の核である准看護師たる衛生救護陸曹となるべく、「日々前進」し続けること」と式辞を述べた。

学生28名は、いただいた激励の言葉を心に刻み、決意を新たに准看護師となるべく教育に臨む。



病院長 訓示



病院長に申告する学生



准看護学院長 式辞



学院長の式辞を聞く学生



目標を漢字1文字で表現する学生



息子の成長を記録する家族